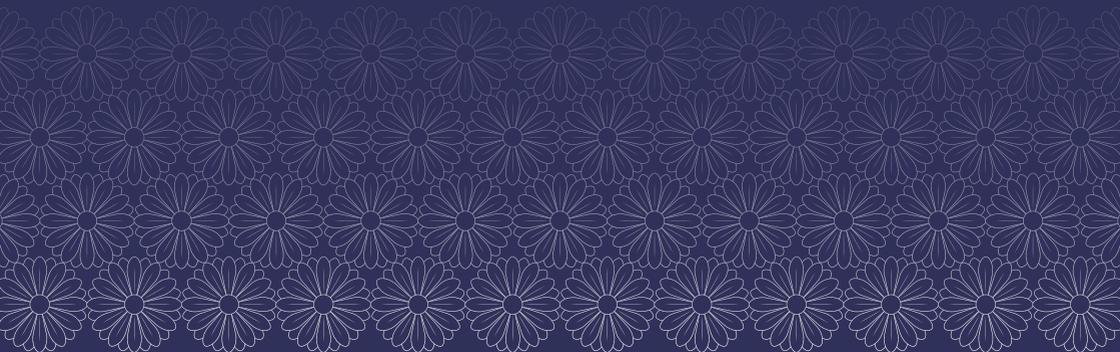


杵 (白岩遺跡)

ふるさと  
教 本  
きくがわ

菊川市教育委員会



# 第1章 菊川の歴史

菊川市教育委員会

## ふるさと教本きくがわ

### 目次

#### 凡例

第1章 菊川の歴史	3
コラム1 高天神城の攻防と菊川	28
コラム2 “今川さま”と棚草用水	29
コラム3 菊川市自治体沿革史	30
第2章 地区の特色	31
コラム4 菊川城館遺跡群	44
コラム5 小笠に残る焼き雛「坊ノ谷土人形」	46
第3章 菊川事典	47

#### 索引

#### 図版出典

### 凡例

- 1 本書は、菊川市の主な歴史を紹介したものです。
- 2 本書では、文化財等の年代を以下のとおり地図に示しました。
  - 古代 ● (旧石器～奈良・平安時代)
  - 中世 ● (鎌倉・室町～戦国時代)
  - 近世 ● (江戸時代)
  - 近現代 ● (明治～昭和時代)
- 3 二次元コードが記載された文化財は、三次元データをお手持ちのスマートフォンやタブレット、パソコンなどでご覧いただけます。  
三次元データは、データ量が多いため通信環境や通信料にご注意ください。また、お使いの端末のバージョンによっては正しく表示されないことがあります。  
あらかじめご承知ください。
- 4 文化財等を見学する際は、土地所有者や周辺住民の迷惑にならないよう注意し、マナーの遵守をお願いします。
- 5 掲載された文化財等は、管理上の都合や所有者の意向などにより公開されていないものもあります。お問い合わせは、菊川市教育委員会社会教育課文化振興係をお願いします。
- 6 本書の内容は、2024年3月現在のものです。
- 7 本書は、菊川市教育委員会社会教育課が編集・作成しました。
- 8 本書の制作にあたり、個人・各機関等から御協力を賜りました。記して感謝申し上げます。

(五十音順、敬称略)

〔個人〕小泉 祐紀 佐藤 祐樹 谷口 安曇  
戸塚 和美 藤村 翔

〔機関〕磐田市教育委員会 静岡県スポーツ・文化観光部  
文化局文化財課 静岡県埋蔵文化財センター  
東京国立博物館 富士市教育委員会  
藤枝市スポーツ文化観光部文化財課



三角縁神獸鏡 (上平川大塚古墳)  
(複製品、原品：東京国立博物館 所蔵)

### 3 古墳時代

#### 豪族の出現と菊川

3世紀中頃になると大和(奈良県)では大型前方後円墳が造られるようになります。そして、大和王権との関係を強めた地方豪族も前方後円墳をはじめ、前方後方墳・方墳・円墳などの大型古墳を築造しました。古墳は7世紀まで全国的に造られるので、この時代を古墳時代と呼びます。また、この時代は日本で国家が形成された時期であり、中国や朝鮮半島といった東アジア世界との交流も活発に行われました。

古墳時代は3世紀中葉から4世紀までを前期、5世紀を中期、6世紀から7世紀を後期とするのが一般的です。市内に築かれた最初の古墳は前期の上平川大塚古墳で、中国製の三角縁神獣鏡が副葬された前方後円墳です。中期にも舟久保古墳や大徳寺古墳などの前方後円墳が築かれました。高田ヶ原古墳や寺の谷3号墳の墳丘には埴輪が並べられました。後期は丘陵斜面に横方向に掘った穴を埋葬施設とする横穴墓が採用され、7世紀に爆発的に増加しました。飾大刀や金銅装馬具が出土した大淵ヶ谷横穴群は、有力家族を被葬者とする代表的な例です。

時代	時期	西暦	日本の主な出来事	主な遺跡	菊川市の主な出来事・遺跡
前期	3世紀中頃		大型前方後円墳の築造が始まる	菅蓋古墳(奈良県)	
	4世紀			松林山古墳(磐田市)	上平川大塚古墳
中期	5世紀		大陸文化の伝来(機織・製陶など)	浅間神社3号墳(掛川市) 兜塚古墳(磐田市)	舟久保古墳
			西日本の古墳において横穴式石室が導入	和岡古墳群(掛川市) 堂山古墳(磐田市)	大徳寺古墳
後期	6世紀		中国の南朝に遣使	古新田遺跡(袋井市) 二子塚古墳(磐田市)	高田ヶ原古墳 朝日神社古墳 寺の谷3号墳
	538		奥西部において横穴が導入 仏教公伝(552年説もあり) 群集墳の盛行	飯塚古墳(磐田市)	林光寺遺跡 大淵ヶ谷横穴群
	593		聖徳太子、摂政となる	宇洞ヶ谷横穴(掛川市) 積徳山古墳(静岡市)	
	7世紀		群集墳が継続・盛行	石舞台古墳(奈良県)	杉森横穴D群
終末期	7世紀		大化改新(乙巳の変)	高松塚古墳(奈良県)	

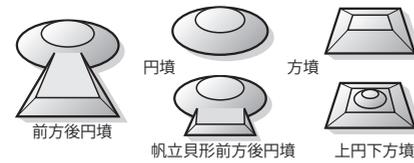


図1 古墳の形  
前方後円墳・前方後方墳・円墳・方墳などがあります。他に朝日神社古墳のような帆立貝形もあります。

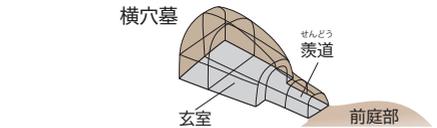
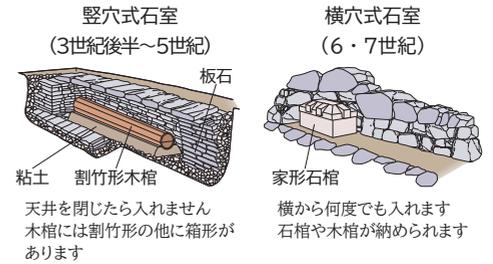


図2 豪族が葬られた棺と施設  
有力な豪族が葬られたのは前方後円墳で、内部施設が竪穴式石室、棺は割竹形木棺でした。6世紀にはほとんどが横穴式石室の円墳や横穴墓になります。

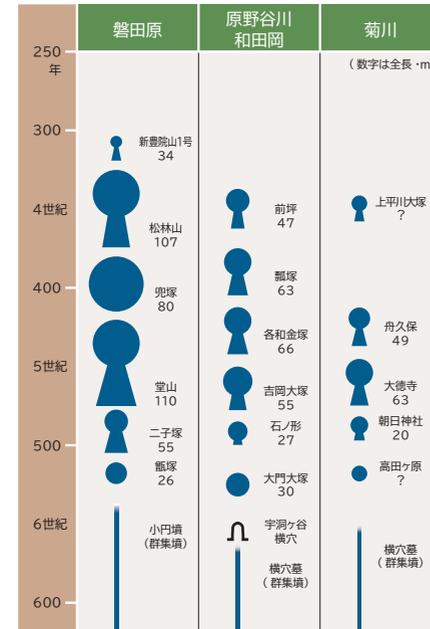


図3 古墳の形や大きさの変化  
遠江の豪族層は、磐田原や和田岡原に古墳群を築きました。菊川流域でも、上平川大塚古墳・舟久保古墳・大徳寺古墳・朝日神社古墳などの有力古墳が継続して築かれました。



写真1 横穴墓の発達(虚空蔵横穴群)【地図:P66】  
古墳時代後期には全国的に横穴式石室をもつ小円墳が密集して築かれますが、菊川市では横穴墓が築かれました。

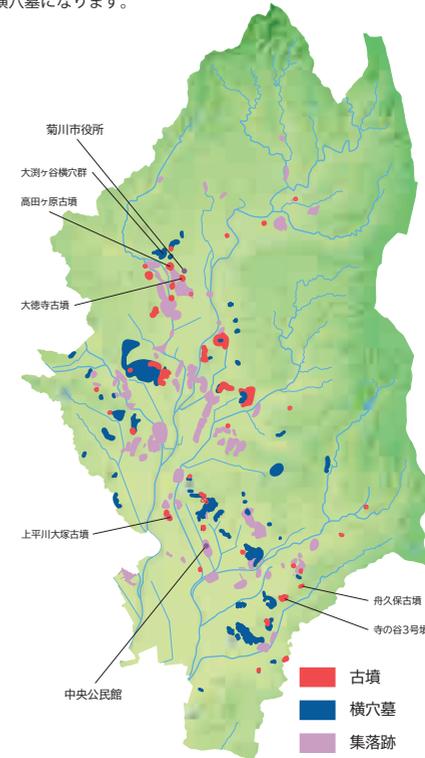


図4 古墳時代の遺跡分布  
古墳の多くは、菊川やその支流を見渡すことのできる丘陵上に築かれました。高田ヶ原丘陵には大徳寺古墳など有力な古墳があります。

## 菊川城館遺跡群【国指定文化財（史跡）】

菊川城館遺跡群は、横地氏城館跡と高田大屋敷遺跡から構成されます。

横地氏は13世紀以降、奥横地に館を構えていたことが発掘調査の結果から判明しました。また、菩提寺になったと思われる三光寺・永楽寺・慈眼寺が創建されており、寺院の位置関係から3箇所の館の存在が推定されています。とくに三光寺跡付近の殿ヶ谷遺跡では礎石建物が発掘され、横地氏の館跡と考えられています。

内田氏の館は、下内田にある高田大屋敷遺跡が推定地とされ、現在でも土塁に囲まれた屋敷地を見ることができます。遺跡に近接して秋葉街道（塩の道）が通過しており、交通の要衝地であったことが分かります。



図1 横地氏城館跡 主要施設配置図【地図：P71】

横地の谷には北側の山裾に館や寺院、南側の山裾には一族の屋敷や鉄製品製作の工房が広がっていました。北側には横地城・南側には小太郎砦が築かれ、谷を守っていました。



写真1 殿ヶ谷遺跡 礎石建物【地図：P71】



写真2 横地城跡出土 船載陶磁器

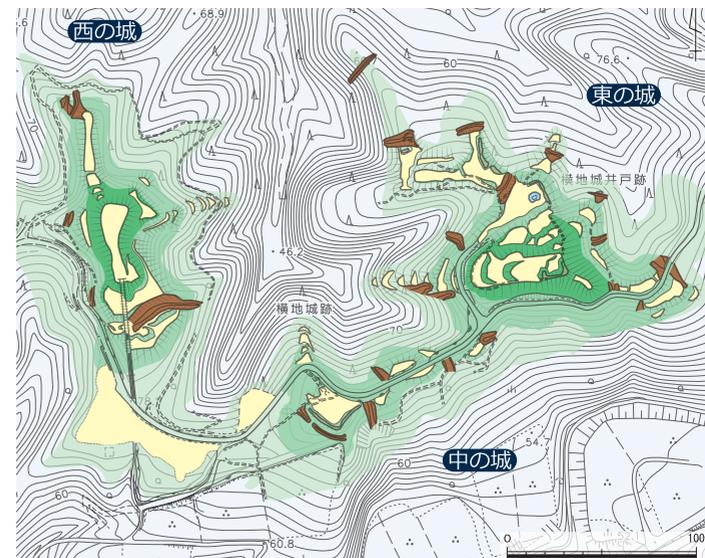


図1 横地城

【地図：P71】

横地城には現在でも曲輪・堀切・土塁などの遺構が残っています。



写真1 伝横地太郎塔石塔群

【地図：P71】



写真2 三光寺跡裏墓地石塔群

【地図：P71】

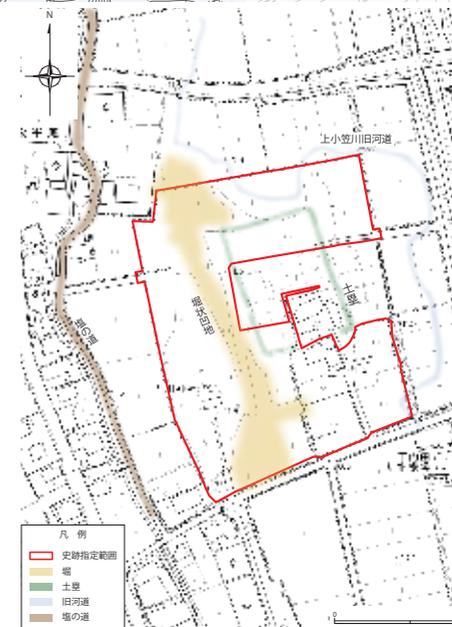


図2 高田大屋敷遺跡【地図：P72】

土塁に囲まれた屋敷地であり、発掘調査から江戸時代～現代まで継続的に屋敷地であったことが分かりました。